

令和 6 年度
(2024 年度)

施 政 方 針

令和 6 年 (2024 年) 2 月 13 日



宝 塚 市

目 次

1	はじめに	1
2	市政運営の基本方針	3
	(1) 子どもたちの笑顔があふれるまち	3
	(2) 誰もがいつまでも住み続けたいまち	5
	(3) 様々な人が手を取り合う、魅力溢れるまち	7
3	令和6年度予算に関する主要な施策	10
	(1) 都市経営	10
	(2) 安全・都市基盤	13
	(3) 健康・福祉	16
	(4) 子ども・教育	18
	(5) 環境	20
	(6) 観光・産業・文化	22
4	予算規模	25

本日ここに、令和6年度（2024年度）当初予算案をはじめ、諸議案を提出するとともに、これからの市政運営に向けての基本的な考え方と主な施策を申し上げます。

議員各位をはじめ、市民の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1 はじめに

皆様の信任をいただき、市長に就任してから3年が経とうとしています。新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で受け取った多くの課題を、市議会議員や市民の皆様、多くの職員の支えで乗り越えて来られたことに、改めて感謝申し上げます。

本年1月1日に発生した能登半島地震では、数多くの尊い命が失われ、未だたくさんの方が不安や喪失感を抱えながら不自由な避難生活を余儀なくされています。被災者の平穏な日常生活の回復には、多くの時間と支援が必要です。

阪神・淡路大震災で温かな手を差し伸べていただいた自治体として、国、県などと連携し、被災者に寄り添いながら、一日も早い被災地の復旧・復興のため、職員の派遣、物資の提供など必要な支援を継続してま

います。

市長就任からの月日を振り返ってみますと、未曾有のパンデミックや戦争に端を発した物価高騰など、世界規模での急激な社会環境の変化を避けて語ることはできません。常に変動し、複雑で将来予測が困難な時代に的確に対応する体制を整備するため、令和3年

(2021年)に策定した「行財政経営方針」において、本年度までの3か年を財政、組織、デジタル・データの3つの基盤を強化するための期間と定め、持続可能で時代に即した行財政経営にまい進してまいりました。

また同時に、令和4年度(2022年度)に着手した新ごみ処理施設の整備に加えて、市立病院においても新病院の整備を含めた経営強化に関する計画を策定するなど、市民の暮らしの基盤である大規模施設の維持、整備にも着実に取り組んでいます。

これら社会環境の複雑で急激な変化に対応しながら、大きな課題に向き合っている中で、本年4月に、宝塚市は市制施行から70周年を迎えます。

先人たちの培ってきた歴史に思いをはせながら、10年に一度の節目の年に市政運営を担うことに、大きな感謝と喜びを感じています。

持続可能なまちづくりを着実に前進させながら、市

民の幸せを一つでも多く実現できるよう、決意を新たに次なるステージに向けて、全身全霊で挑戦を続けてまいります。

2 市政運営の基本方針

それでは、令和 6 年度（2024 年度）の市政運営についての基本的な考え方を申し上げます。

令和 3 年度（2021 年度）にスタートした第 6 次宝塚市総合計画に基づき、SDGs の理念を踏まえ、協働・共創による持続可能なまちづくりを推進していくために、次の 3 つを柱に取り組んでいきます。

（1）子どもたちの笑顔があふれるまち

止まらない少子化により、社会経済の活力減退や社会保障費の負担増などの問題が顕在化している中、誰もが安心して子どもを産み育てることができる環境を社会全体で構築することが大切です。

昨年 2 月に、たからっ子総合相談センター「あのね」を開設し、また本年 1 月には乳幼児等医療費助成の所得制限撤廃と高校生の入院費用までの拡充を行うなど、多くの施策を実行に移してきました。昨年 8 月には「こ

どもまんなか応援サポーター」を宣言しており、今後さらに子どもと子育て世帯にやさしいまちの実現に向けた啓発にも取り組んでまいります。

引き続き、全ての子どもや家庭に対する切れ目のない支援を行うとともに、保育所や放課後児童クラブ整備による待機児童対策、産後ケア事業の拡充など、子育て世代に選ばれるまちの実現に向け、様々な角度から必要な取組を着実に進めてまいります。

長く続いたコロナ禍が明け、子どもたちの無邪気な笑い声やまぶしいほどの笑顔に触れながら、かけがえのない命と安全を守り抜き、安心して学べる機会をしっかりと確保しなければならないという思いを強くしています。

令和6年度（2024年度）は、学校施設長寿命化計画に基づく老朽化施設の維持修繕や長寿命化改修工事、またLED照明の導入といった省エネルギー化など学校施設関連の予算に約25億円を計上するとともに、今後2年間で約22億円をかけ、全ての市立小中学校の体育館に空調設備を整備します。

他にも学校の環境整備においては、教職員の勤怠管理システム導入やスクールサポートスタッフの増員により、丁寧に子どもと向き合うことができるよう教職

員の事務を効率化します。加えて、コミュニティ・スクール、部活動の地域移行を着実に進め、子どもたちの成長を見守り、支えることのできる環境づくりを加速させてまいります。

地域の方々から、子どもたちの豊かな成長を手助けしたい、子どもたちに古き良き文化を伝えたいという、市の将来を担う子どもたちを思う気持ち、多くの温かな言葉をいただいています。

子どもたちを見守り、育む全ての方々と共に、未来につながるまちづくりを進めてまいります。

(2) 誰もがいつまでも住み続けたいまち

感染症の影響により、社会が大きく変化する中で、これまでの手法や一自治体では対応しきれない課題が顕在化してきました。また、支援が必要な方々を地域で見守り、皆で支え合い、住み慣れたまちで暮らすことができる環境を整備する重要性が増しています。そのため、高齢者の支援について、地域包括支援センターの職員を増員することにより、体制の強化を図ります。

安心して健やかな暮らしを守るためには、高齢化の進行による医療ニーズの変化や新興感染症に適切に対応

できる医療環境の整備は欠かすことができません。

宝塚市立病院は地域の中核病院として、本年度に策定する経営強化プランに基づいて着実に健全経営を行っていくとともに、他の医療機関との機能分化や連携強化を図りながら、新病院の整備に向けた取組を進め、持続可能な地域医療提供体制の確保を目指します。

また、悩みを抱える方にとっては、家庭環境や健康状態などの課題が絡み合い、相談すべき窓口に上手くたどり着けないことが少なくありません。私はこれまで、多くの方々の悩みに寄り添う中で生きづらさを和らげる支援に関わってきました。人を支えること、支えていきたいという強い思いが政治活動の原点となっています。

これからも、多様化・複雑化する支援ニーズに対応し、誰一人取り残さないまちを実現するため、包括的な相談支援体制づくりを進めてまいります。また、困難な問題を抱える女性への寄り添った支援を行うための新たな相談窓口を設置します。

近い将来の発生が予想される南海トラフ地震への備えを強化するため、第二庁舎に災害対策本部室を常設化し、災害時に迅速な対応ができる体制づくりに努めてきました。令和6年度（2024年度）は、指定避難

所でもある市立小中学校の体育館への空調設備の整備に着手し、健康に配慮した避難所環境を整備するとともに、近年気温の上昇が続く夏場の児童・生徒の体調管理や熱中症対策を進めます。また、防災資材の確保や倉庫の再整備を行うなど、命と暮らしを守ることができる安全、安心なまちづくりを前進させてまいります。

世界では、出口の見えないロシア・ウクライナ戦争に加えて、パレスチナ情勢の悪化がおびただしい数の犠牲者を生んでおり、強い憤りを感じるとともに、胸が詰まる思いです。

本市で日本非核宣言自治体協議会の設立40周年記念講演会などを実施し、戦争や紛争で人々の命が奪われることのない世界の実現に向けて、皆様と共に取り組んでまいります。

(3) 様々な人が手を取り合う、魅力溢れるまち

昭和29年4月1日、良元村と宝塚町の合併により宝塚市は産声をあげ、当時人口4万人だったこのまちは、今や市民22万人が暮らすまでに成長しました。

明治、大正期に相次いだ武庫川水系の氾濫や昭和時代の高度経済成長による急激な人口増加、また平成7

年に発生した阪神・淡路大震災を経て、今ここに築かれた「創造性豊かな文化芸術の薫り高い宝塚」こそが、先人たちの知恵と行動力、また、本市の誇る市民力の証です。

本年４月１日、本市は市制７０周年を迎えます。過去から継承されてきた多くの経験と歴史、文化をもとに、市への愛着を醸成し、皆様と一体となって、着実に課題を乗り越えながら歩みを進めていかなければなりません。

市制７０周年事業の基本方針では、過去・現在・未来の繋がりを表現する「辿る軌跡」「架ける橋」「未来への光」を基本理念として掲げました。歴史を振り返りながら、多様な主体と手を取り合って賑わいを創出し、未来につながる一歩とすることを目指しています。

宝塚サマーフェスタや宝塚だんじりパレードといった人々がつないできた催しや、湯のまち宝塚といった市制施行以前より本市の賑わいの礎を築いてきたもの、また、人と人が支え合い、お互いさまのまちづくりを進める集い、そして未来を担う子どもたちが主役のイベントなど、大小様々な催しが、多様な担い手によって市内各地で開催されます。

また、市花ダリアを活用した催しや里山フェスタを開催し、北部地域の持つ穏やかさと南部の賑わい、それぞれの美しい色合いを生かし、市の魅力を最大限に発揮してまいります。

本市には、子どもたちの見守りや清掃活動、安全対策、災害時の助け合いなど、様々な場面で活躍されている方々があります。地域でまちづくりを支えてくださるお一人おひとりと一緒になって、その活動を支援し、記念事業を盛り上げながら、新たな絆を紡いでいきます。

本市のまちづくりは、行政だけが担ってきたわけではありません。市民、事業者、関係団体の皆様一人ひとりがまちづくりの主役であり、共に創りあげてきたまちです。市が産学のご協力を仰ぐだけではない、新しい共創の取組が動き出しています。包括連携協定による取組や公共空間での社会実験を通して、これらの多様なパートナーとの協働、共創による取組を進めます。

これからも、皆様と手を取り合い、支え合いながら、70年の歳月で築き上げられた歴史や文化を次の世代へとつないでまいります。

3 令和 6 年度予算に関する主要な施策

それでは、第 6 次宝塚市総合計画の 6 つの分野に沿って、令和 6 年度（2024 年度）の主要な施策について申し上げます。

(1) 都市経営

まず、行財政経営の取組については、この 3 年間、財政、組織、デジタル・データの 3 つの基盤の強化に注力してきました。強化期間としては区切りを迎えますが、複雑に変化し、価値観が多様化する社会において、持続可能なまちづくりを目指さなければなりません。

組織体制については、部局横断的な取組を進めるため、室制度を見直すとともに、公共交通施策の推進、環境施策の一体的な実施などに取り組みます。また、各施設の情報一元化や総合的かつ戦略的な施設保全を行うとともに、公共施設の複合化や統廃合、再編などの取組を着実に進めるため、体制強化を行います。

DX の取組については、DX 推進ビジョンに基づき、データ利活用や業務改革を軸とした DX の推進に取り組んでいます。行政内部で蓄積されている情報を可視化し、アイデアの創出や議論の活性化につなげるなど、

客観的根拠に基づいた政策立案を進めます。また、業務改革の面では、専門知識がなくてもシステムが作成できるノーコードツールの活用などにより、個別業務の改善や全庁的な内部事務の効率化を進めます。

情報システムの標準化については、住民基本台帳や税など国の定める業務システムを、令和7年度（2025年度）末までに標準仕様に準拠させるよう着実に作業を進めます。

広報活動については、職員の広報マインドとスキルアップを図るため、専門家による研修を実施します。

また、子どもを連れて参加しやすいイベントなどの子育て世代に必要な情報をよりわかりやすく発信するため、イラストや写真を用いた連載記事や、リール動画を作成し、SNSで発信します。

公共施設マネジメントについては、更新時期の集中による財政負担を平準化するため、建物施設の総量削減目標の見直しなど、公共施設等総合管理計画の改定に向けて各種調査を実施し、更なる公共施設マネジメントの推進を図ります。

市制70周年を市民と共に記念の年を祝い、将来への更なる発展を誓い合う式典を開催するとともに、長年にわたり本市の発展に貢献されてきた功労者の皆様

を表彰します。

また、市民活動団体に対して、事業の経費の一部を市が補助することにより、共に市制 70 周年を祝い、まちづくりに参画する市民の気持ちを未来につないでまいります。

市民との協働については、担い手づくりなどの具体的な課題や時代の変化に対応するため、新たな人材確保策や効果的な活動方法、先進事例を周知し、横展開につなげるとともに、市民の皆様が集まって意見交換する場も設けることで、市民と市の協働のまちづくりを推進します。

困難な問題を抱える女性への支援については、新たな相談窓口を創設し、心身の状況などに応じた最適なサポートや自立して生活するための寄り添った支援につなげます。

人権については、性的マイノリティの啓発リーフレットを社会情勢や法制度の変化に合わせて改訂し、公立学校での配布や、自治会などを通して幅広く市民の皆様を活用してもらうことで、性的マイノリティへの理解促進を図ります。

平和施策については、永遠に平和な社会を願って建設したモニュメント「火の鳥」に 30 年間収容してい

るタイムカプセルを開封するとともに、次の100周年に向けてメッセージなどを収めます。また、日本非核宣言自治体協議会の設立40周年を記念し、平和特別講演会を開催します。市民の皆様と世界の恒久平和を願い、平和のバトンを次世代へとつないでまいります。

(2) 安全・都市基盤

次に、安全・都市基盤については、これまでも災害情報システムを活用したシミュレーション訓練による職員の対応力向上や、アドバイザー派遣、出前講座による地域の防災力向上に取り組んでまいりました。また、他の自治体や民間企業・団体との協定締結による連携体制の構築を進めています。

南海トラフ地震などの激甚災害が発生した際にも、第二庁舎の災害対策本部室を司令拠点として災害対応業務が継続できるよう、必要な資機材を引き続き整備します。また、防災井戸や備蓄倉庫を更新するとともに、市内事業者など多様なステークホルダーと連携した地域の防災力向上を図る取組を進めます。

防犯対策としては、自動録音電話機などの購入に対する補助制度を新設し、特殊詐欺の被害防止を図ります。

消防では、増加傾向にある救急事案に対応するため、日勤の職員が乗務する機動救急隊を発隊し、救急救命体制を強化するとともに、保育付きの救命講習の回数を充実させることで、子育て世代への応急手当の普及啓発を推進します。また、部隊の統制に不可欠な消防救急デジタル無線機器を更新し、消防体制の強化を図ります。

都市計画道路のうち、荒地西山線は、側道部などの残りの工事に着手し、早期完成を目指します。

競馬場高丸線は、鹿塩工区も本格的に着工するとともに交差する市道逆瀬川仁川線の改良工事を進め、阪急今津線立体交差部工事の早期開始に取り組みます。

山手幹線は、交差する河川の暗渠化工事に着手し、宝塚南口駅前にふさわしい空間を整備します。

急傾斜地対策については、市と民間が所有する混在斜面地について、県急傾斜地崩壊対策事業と調整を図りながら市所有部分の安全対策工事に着手するとともに、土砂災害警戒区域を含めた市所有斜面地の点検調査や維持管理を継続して実施してまいります。

北部振興では、地域が主体的に進めている移住の受け皿づくりについて、地域情報の発信や移住希望者と地域住民とのマッチング、関係人口の創出につながる

活動などを支援します。

J R 武田尾駅については、駅舎の概略設計と駅周辺地区のバリアフリー基本構想の策定を行っているところであり、引き続き、事業者である J R 西日本や県と連携し、国の鉄道駅総合改善事業を活用したバリアフリー化を進めます。

また、公共交通については、バス路線の改編や減便が実施され、一部地域では宝塚市立病院への通院や日常生活での移動に不便が生じています。そのため、プロポーザルで選定した事業者による実証実験を行い、課題やニーズの把握、対応策の検討を進め、市立病院などへの移動手段の確保に段階的に取り組みます。

また、売布山手地域を運行する路線バスについて、新たな技術を活用した A I オンデマンド交通の実証実験を行います。

上水道では、水運用の効率化と施設維持の負担軽減を図るため、引き続き、配水池、加圧所の統廃合や管路の耐震化、更新に取り組みます。

下水道では、向月町・鶴の荘地区と星の荘地区の内水氾濫への対策として、雨水排水施設の改良や再整備を行います。

(3) 健康・福祉

次に、健康福祉については、高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターが機能を十分に発揮できるように、専門職の人員配置を強化します。

また、携帯型の緊急通報装置を貸与し、独り暮らしの高齢者などの緊急時に迅速かつ適切に対応します。

国民健康保険診療所の利便性向上を図るため、旧教職員住宅の建物を解体し、跡地を駐車場として整備します。

新型コロナワクチン接種については、令和6年度（2024年度）から予防接種法に基づくB類疾病の定期接種として実施する方針が国から示されており、情報収集や関係機関との協議を進めながら、円滑な制度移行を図ります。

骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業においては、骨髄又は末梢血幹細胞を提供したドナーに対する補助制度を創設し、提供者の負担軽減と提供希望者の登録推進を目指します。

産後ケア事業については、助産師による訪問型、通所型に加えて、昨年8月から新たに宿泊型のケアを開始しました。令和6年度（2024年度）は宿泊型の利用料減免を導入し、制度を充実します。

また、3歳児健診の視力検査に新たな屈折検査機器を導入し、早期の治療につなげます。

市立病院については、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、本年度中に策定する経営強化プランをもとに健全経営を行うとともに、新病院の整備に向けた取組を進めます。また、計画的な施設設備の改修更新により安全な医療を提供するため、空調設備の更新整備を進め、東病棟の大規模改修工事に着手します。

「すべての人がお互いを認め合い、支え合い、共に輝きつづける 安心と活力のまち 宝塚」の実現を目指して、市内の福祉活動を紹介するイベントを、市制70周年事業として官民協働により行い、様々な活動団体や地域の人々がつながり、支え合う、活力のある福祉のまちづくりを進めます。また、障害者週間記念事業、身体障害者補助犬シンポジウムなどを実施し、^{がい}障害への理解と^{がい}障害者の社会参加を促進します。

物価高騰の影響などにより支援が必要な方や、ひきこもりを含む社会的に孤立する方など、制度の狭間に置かれた生活困窮者、複合的な課題を抱えた方に対し、関係機関と連携しながら、包括的かつ継続的に寄り添った支援を継続していきます。

(4) 子ども・教育

次に、子ども・教育については、たからっ子総合相談センター「あのね」において、子どもの特性への理解を深める研修や組織的な連携の協議を進めることで、相談体制を強化するとともに、児童福祉と母子保健の一体的な推進体制を強化し、切れ目のない支援の充実を図ります。

また、子どもや子育て世帯を温かく見守る機運を醸成するため、啓発ポスターの作成やSNSによる情報発信を通して、理解と協力を呼びかけるとともに、市民、事業者、団体と連携した取組を集中的に実施することで、「こどもまんなか社会」の実現に向けたまちづくりを推進します。

医療的ケア児への支援については、公立学校園と保育所への看護師の配置を継続するとともに、米谷保育所の大規模改修に併せてエレベーターを設置し、子どもの安全な学びや保育環境の整備を進めます。

待機児童対策については、私立保育所を誘致するとともに、入所待ちが見込まれる小学校区において、新たな民間放課後児童クラブを設置し、受入れ人数の拡充に取り組みます。また、地域児童育成会では、長期休業期間中における開所時間の前倒しに向けて準備

を進めます。

保育の担い手確保のため、新規採用した保育士が継続して勤務した場合に支援金を支給する保育士就職支援事業を開始します。

コミュニティ・スクールについては、学校運営協議会での熟議を重ねながら、地域と共にある学校づくりのため、コミュニティ・スクールの役割が十分に発揮できる仕組みづくりに取り組みます。

中学校の部活動については、部活動地域移行検討協議会で協議を進めるとともに、複数の部活動をモデルとして、地域や保護者との意見交換、指導者の確保などに取り組み、円滑な地域移行を図ります。

学校給食については、物価高騰の影響を受けている子育て世帯を支援するため、引き続き、市が食材費の一部を負担することで、保護者負担を増やすことなく、質の高い給食を提供します。

いじめ、不登校対策については、問題が複雑化する前に迅速かつ的確に対応するため、スクールロイヤーやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーといった専門職を活用しながら、教員の問題解決能力を高めます。また、不登校支援員を小学校にも配置するなど、別室登校する児童生徒の支援体制を整備し、

学校を多様な学びの場にする取組を進めます。

GIGA スクール構想については、市独自で ICT 支援員を配置し、授業支援や ICT 活用のための教材作成を支援することで、児童生徒のタブレット端末の日常的な活用を進めます。

宝塚自然の家では、自然と触れ合いながら、市の特産物などを味わうことができるイベントやキャンプ体験などを実施します。

(5) 環境

次に、環境に関する施策のうち、公園については、策定作業を進めている「宝塚市パークマネジメント計画」において、まちづくり協議会ごとに公園区別の計画案の作成を進めるとともに、整備モデル地区を選定し、詳細な事業計画案の作成に着手します。

脱炭素化の推進については、社会課題となっている地球温暖化防止の取組の輪を広げる啓発事業を積極的に進めます。また、国の「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」を活用し、引き続き、住宅や事業所における省エネルギー設備への更新費用の助成を実施するとともに、太陽光発電設備については、セットで導

入する蓄電池も助成対象とし、自家消費型の太陽光発電設備の導入を推進します。

北部地域における県有林の木質バイオマス資源の活用については、県や地域、事業者と共に、「北摂里山地域循環共生圏」の事業の推進を図ります。

北部地域の振興に資する施設などの新設を促すため、合併処理浄化槽の新規設置に関する補助金の交付対象を50人槽まで拡充し、地域の活性化を図ります。

新ごみ処理施設の工事については、一部の既存施設を解体し、新たにエネルギー回収型廃棄物処理施設の整備を開始します。工事による影響を周辺地域の皆様へ丁寧に説明しながら進めてまいります。また、本年4月から始まる、新ごみ処理施設の運営事業者による仮設リサイクル処理場の運営について、モニタリングし、安定したごみ処理・市民サービスの向上を目指します。

火葬場については、安定的な稼働とサービス提供を維持しながら、将来を見据えた需要に対応するため、老朽化した火葬炉の更新工事に着手します。

市営霊園については、樹木葬式墓所の供用や長尾山霊園の市外在住者への貸出状況などを踏まえて、霊園

の PR を進めます。また、西山霊園内に駐車スペースを新設し、墓参者の利便性向上を図ります。

(6) 観光・産業・文化

次に、観光・産業・文化については、市制 70 周年を契機とし、コロナ禍が明けて戻りつつある活気を確かなものにするよう取組を推進します。

観光振興については、800 年の歴史を有する宝塚温泉と生誕 120 年を迎える本市発祥のウィルキンソントンサンを活用し、ギネスに挑戦するなど市民参加型のイベントを事業者と共に実施することで、地域の活性化につなげます。

また、大阪・関西万博の開催や神戸空港の国際化により、世界から関西への注目が集まることを見据えて、市国際観光協会と連携し、空港や京都・大阪などの外国人旅行者が多く集まる拠点において PR 事業を展開します。

文化芸術振興については、文化芸術センターにおいて、市制 70 周年事業として市が所蔵する作品の展覧会を開催し、本市にゆかりのある作家の作品や文化芸術の歴史を紹介します。また、包括連携協定を締結している「学校法人甲子園学院」が所蔵する源氏物語絵

巻などの作品を展示し、子どもたちが本物の文化、芸術作品に触れる機会を提供します。

さらに、国内外から注目を集めている「豊岡演劇祭」の公演を誘致し、文化芸術があふれる創造性豊かなまちづくりを進めるとともに、まちの賑わい創出を目指します。

商工業では、キャッシュレス決済を利用した人にポイントを還元することにより、消費の喚起を図り、物価高騰の影響を受けている市内店舗の販売促進と市内経済の活性化に取り組みます。

また、市内の労働実態の把握に努めるとともに、就職を希望する方への支援を行うことで、産業振興と雇用促進の両面から地域の活性化を図ります。

本市の地場産業である花き植木産業については、宝塚植木まつりにおいて、より多くの方々に来場いただけるよう、毎年春に実施している寄せ植え体験会を秋にも開催するほか、引き続き、あいあいパークを中心として、花や緑に触れ合う機会の創出に取り組みます。

また、市花ダリアで作ったブーケを花のみちに並べ、ギネス記録に挑戦する市民参加イベントなどを通して、ダリアの魅力や地場産業としての歴史を市内外に発信します。

北部地域については、農業振興の取組として、農業の将来像を明確にする地域計画の策定に向けた各集落の取組を引き続き支援し、農地の集積や集約により効率的な農地の利用を促進していきます。

また、豊かな里山を未来につなぐため、若年層を里山にいざない、親しみや理解を深め、里山を育てる意識の醸成を図る「ひょうご里山フェスタ 2024」を開催します。

花のみち周辺エリアにおいて、イベントの開催を通じて市内外から新たな人流を生みだし、花のみち周辺の賑わい創出を図ります。

4年ぶりの開催で大きな賑わいを見せた「宝塚サマーフェスタ」については、実行委員会と連携しながら子どもから大人まで幅広い世代が参加しやすい企画を充実させます。

また、「宝塚だんじりパレード」を6年ぶりに開催します。市内の伝統あるだんじり15台の勇壮な姿を間近に見ていただき、だんじりの文化を次世代へと継承していきます。

手塚治虫記念館では、本年4月に開館30周年を迎えることを記念して、セレモニーやトークショーを開催するとともに、企画展を積極的にアピールするため、

バナーフラッグやW e b ページの作成、S N S による
広報に取り組みます。

また、20 回目の節目となる宝塚ハーフマラソン大会を通して、市民や実行委員会との連携を深め、スポーツ文化の活性化と全国から集う人々との交流の促進を図ります。

4 予算規模

以上のとおり、市政運営に向けての私の基本的な考え方と、令和 6 年度（2024 年度）当初予算案に盛り込んだ内容について、6 つの分野に沿った主な施策を申し上げました。

この結果、令和 6 年度（2024 年度）当初予算案は、

一般会計	905億 5,000万円
特別会計（6会計）	509億 6,186万 8千円
企業会計（3会計）	331億 9,148万 9千円
全10会計合計	1,747億 335万 7千円

となりました。

議員各位におかれましては、予算案及び諸議案について慎重にご審議の上、ご賛同賜りますようお願い申

し上げます。

「子どもたちが、大きな夢を、しっかりと地球の大地を踏みしめて、宇宙へとはばたかせることができるように、ぼくたち大人は力をふりしぼらなくてはなりません。」

本市で多感な少年時代を過ごされた手塚治虫氏のエッセイ「ガラスの地球を救え」の一文です。

日本は今、物価高騰や少子高齢化など複雑な問題を抱え岐路に立ちながら、頻発する大災害にどう向き合うべきかという重大な課題を突き付けられています。

本市もまた、多くの課題に対して様々な対策を講じていますが、それらの実現には一つ一つの課題に正面から向き合い、最後までやり抜くための確固たる決意と実行力が不可欠です。

市制 70 周年の節目を機に、宝塚市は新たな舞台に歩みを進めようとしています。

本市の更なる飛躍のため、次の世代を担う子どもたちが健やかに育ち、市民が日々の暮らしに豊かさを実感できるまちを目指して、全力を尽くしてまいります。

議員の皆様、市民の皆様のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。